

# 榛東村見守りネットワーク事業 ～住民支え合いマップづくり～

群馬県 社会福祉法人 榛東村社会福祉協議会  
事務局長 小野関 芳美



## 1 はじめに

榛東村は、群馬県のほぼ中央の榛名山東麓に位置し、東に関東平野を望み前橋市・高崎市に隣接する農村です。2021年1月末人口14,588人、5,947世帯、高齢化率約26%、前橋市、高崎市、渋川市に隣接する地勢から、ベッドタウン化が進行しています。大規模な施設としては陸上自衛隊群馬原駐屯地があり演習場・飛行場を有し、東日本大震災を始め多くの災害派遣の実績をあげています。

## 2 防災ボランティアしんとう設立

榛東村社会福祉協議会では、一人暮らし高齢者や高齢者世帯等の見守り活動や防災ボランティア活動を目的とし、2006年6月、消防団のOB組織である防災ボランティアしんとう（以下、防災ボランティア）を設立しました。会員の職業は、スーパー、ガソリンスタンド、建設業、電気屋、農業等多岐にわたり、災害時には多様な対応が可能となっていることは心強い限りです。活動としては、2007年度に開始した支え合いマップづくりを基に避難行動要支援者の見守り活動、高齢者宅等除雪活動、普通救命講習（AED）受講、近隣防災館の視察研

修を始め、2011年東日本大震災では福島県南相馬市、2017年、2019年関東豪雨では栃木市において災害ボランティア活動を行っています。

また2013年には、平日昼間の時間帯における消防団員不足の問題を解決する活動として消防救助活動支援協定を村、社会福祉協議会及び防災ボランティアにおいて協定書の締結を行い、火災時には消防団と共に出動し消火を援助する活動を開始しました。

## 3 支え合いマップづくりから 生まれていく地域活動

～課題共有の場、そして場の持つ力～

榛東村社会福祉協議会では、村内全域で「見守りネットワーク事業」を展開しています。この事業の中心が地域住民の参加により行う「地域支え合いマップづくり」です。各行政区の自治会長、自治会副会長、民生児童委員、消防団員、防災ボランティア、村内福祉施設、JAや学校関係者等毎年200名以上が集い、見守りが必要な避難行動要支援者（以下、「要支援者」という。）の情報を地域ごとに毎年更新しながら、見守り・声掛けや安否確認などを行うことで孤立を予防し、生活を送るなかでの困り事の把握や、緊急事態への対応を図る事業です。



消防団員から取扱説明を受ける防災ボランティア



支え合いマップづくり

2019年10月の台風第19号においては、村内に避難準備・高齢者避難準備開始（警戒レベル3）が発令された際には、支え合いマップづくりで共有した情報を活用して要支援者と共に早めの避難を開始し、近くの避難所で一夜を安心して過ごしました。

支え合いマップで把握される要支援者の状態は、2019年よりA・B・Cに区分分けされ本人の状況に合わせた速やかな避難行動支援が可能となりました。2020年より特に避難支援の必要な方が、主にどの部屋で過ごしているかなど個別のプランを作成し、要支援者の情報や福祉避難所を含め何処への避難が適切かなどを地域支援者で共有することでよりの確な避難行動を行う体制を構築することができました。

マップづくりは支援者相互の顔の見える関係づくりにも繋がっています。要支援者を誰かひとりではなく地域全体で見守る雰囲気醸成と共に、参加者が自然と自分事として意見交換している姿を見てマップづくりの「場」が、その話し合いや地元に戻ってからの活動を含めて地域づくりの「場」になっていることを確信しています。



地域支え合いマップ作成

また、見守りネットワーク事業の一環として、降雪時の除雪活動も行ってきましたが、大量降雪など緊急時の対応や担い手の固定化による長期的な継続性が課題となっていました。

そこで、2016年度に国土交通省「雪処理の担い手の確保・育成のための克雪体制支援調査業務」（以下、克雪体制支援調査業務）

の取り組みに手を挙げ、見守りネットワーク事業を活かしながらさらに広く地域の人材に関わってもらうこと、具体的な取り組みを作ること、除雪資材を配布することなどを意図して除雪支援体制の大枠を整理する協議の場を設置することにしました。

2016年12月には、「除雪支援体制ネットワーク全体会議」を開催し87名が参加しました。前述の課題が共有されたことで今後の対応が活発に議論され、「防災無線や学校一斉メールを活用し、地域全体での除雪活動に取り組んではどうか」「支援すべき高齢者世帯等の把握のため支え合いマップづくりでの情報共有したい」など多くの意見がでました。こうして迎えた冬期の降雪時には、要支援者宅に加え、通学路の除雪なども自発的に行われ、早速会議の効果が発揮されました。



住民による除雪活動

## 4 住民の力は無限大

### ～きっかけづくりを後押し～

地域住民相互のつながりが希薄化する今日、「支え合いマップづくり」をきっかけに様々な関係団体と連携し、改めて繋がりを構築する地域づくりを進めてきました。この事業推進を通じて村民の「何か地域のために自分ができることをしたい」という強い地域愛を感じます。元々地域住民の中にあった想いが見守りネットワーク事業に参加するという行動をきっかけに村全体に広がり今日の取り組みへと飛躍しました。地域住民の力は無限大であることを強く感じたこの15年ほどの実践です。